

森づくりサポーターニュース

平成22年(2010)1月15日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL <http://www.ex.biwa.ne.jp/moridukuri/>

秋のサポーター活動

今年度(2009年度)の第3回目の秋季の「森づくりサポーター活動」が10月11日(日)に行われました。サポーター42名とガールスカウト36名の参加がありました。当日、サポーターの皆さんは、2003年～2004年に苗木が植えられた「ふれあいゾーン」で、枝打や間伐の作業をしました。

この地区は、生長した樹木に傍の水路からクズがはい上がってからみつき特に見苦しい状態でした。このため、枝打ちや間伐のかたわら、このクズの除去作業も併せて行いました。体力的にも大変な作業でしたが、それなりのお年(すみません!)とは思えないほど気合いの入った作業で、おかげであの絡みついたクズが1時間半ほどでなくなりました。体を動かしての体力増強にもなったような活動であったと思いますが、終わったあと、風通しの良いスッキリした林をふりかえてみて達成感を満喫していただけたように思いました。

ガールスカウトの児童は、中村實先生からおいしい花の蜜のある植物と昆虫についておもしろいお話(自然学習)を聴きました。またつどいのゾーンの林の中に入ってコナラやクヌギのたくさんのドング

りを拾い、そのドングリの種まきをしました。今年のドングリは少し小ぶりだったようです。このあと、ツバキの実を利用した昆虫クラフトづくりをしました。ツバキの実をボンドでとめるとテントウムシのような形になりました。それぞれ好きな色を塗りひもを付けるとかわいいアクセサリーになるのを子供達は嬉々として楽しんでいました。

ところで、この活動日にあわせて隣接する今浜自治会のコスモス祭り(第6回)が行われる予定でしたが、今年は新型インフルエンザの関係で自治会がこの祭りを急遽自粛されました。例年、サポーターの皆さんも昼食時にこの祭りでふるまわれる「豚汁」のお相伴をしていただいていたのですが、今年はこの楽しみがなかったのが、少々残念でしたね!

食べ物のうらみは怖いと言わず、来年はきっと祭りもまた再開されると思いますので、サポーターの皆さんの積極的な参加を期待しています。

昼食のあと、午後は「つどいのゾーン」で有志による間伐作業をしました。活動に参加いただいたサポーターの皆さまご苦勞さまでした。



クズの除去作業



テントウムシじょうずに出来たよ

植栽苗木の生育状況について

②

前号で、「つどいのゾーン」の生育調査結果をお知らせしましたので、今回は、「ふれあいゾーン」の生育調査結果です。

■ふれあいゾーンの生育状況

つどいのゾーンの南側に隣接した「ふれあいゾーン」は、道路沿いにあるため、利用者が多く、ふれあい池周辺の芝生広場では、近くの保育園児の遊ぶ姿がよくみられます。「ふれあいゾーン」では、2003 年秋から植栽が始まり、およそ3万6千本の苗木が植栽されています。

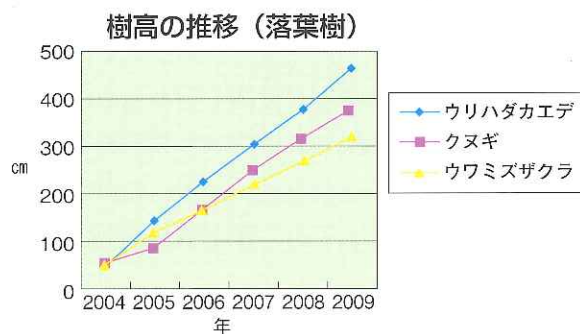
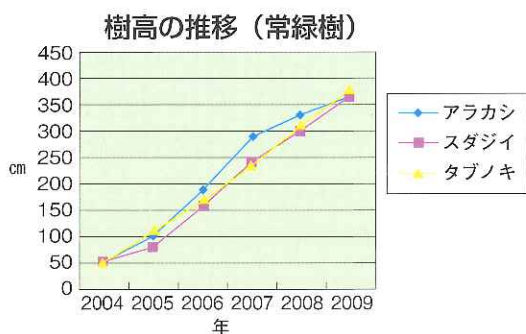
「ふれあいゾーン」を代表して「つどいのゾーン」と隣接した西側植栽地のふれあいA地区の生育状況をご紹介します。ふれあいA地区は、2004 年春の植栽地で、歩道を挟んで西側に常緑樹、東側に落葉樹が植栽されていて、常緑樹と落葉樹の生長比較をするのに適した場所です。

○ふれあいA（2004 年植栽地）

常緑樹 (cm)				
アラカシ	スダジイ	シラカシ	タブノキ	平均
370	364	364	382	370

落葉樹 (cm)					
クヌギ	ウワミズザクラ	ウリハダカエデ	コナラ	エノキ	平均
379	318	464	365	388	383

歩道西側の常緑樹4種類（アラカシ、スダジイ、シラカシ、タブノキ）と歩道東側の落葉樹5種類（クヌギ、コナラ、ウワミズザクラ、ウリハダカエデ、エノキ）の平均樹高を比較すると落葉樹の方が10 cm程高いものの両者にほとんど差はありませんでした。



■主な樹木の樹高の推移

ふれあいA地区の常緑樹と落葉樹の主な樹木の樹高の推移が上のグラフです。

常緑樹はいずれの樹種も同じような生長をしています。落葉樹では、ウリハダカエデが非常に良い生長をしている反面、ウワミズザクラは他の樹種に比べ生長がやや遅れるなど生長にバラツキがみられました。

それでも、ふれあいA地区の樹木の平均年間生長量はおよそ70cmで、全般に良好な生長をしていることがわかりました。



▲ふれあいA地区（左：常緑樹、右：落葉樹）

間伐木を利用したクラフト

7回にわたり、森の病害虫シリーズをお届けしました。今回からは、森の資源活用シリーズです。「びわこ地球市民の森」に植栽された50cmの苗木は、4～5年すると樹高が2～3mの大きさになり、隣同士の樹木の枝葉が触れあい窮屈な状態になります。こうなると1本1本の木は、枝葉が増えず光合成が十分にできないため、幹が太らずもやしのようにヒョロヒョロになるので、ボランティアのみなさんに間伐（間引き）をしてもらいます。

間伐後の林に残された樹木は、空間ができて枝葉が増えるため光合成が旺盛になり大きくなります。そして、また何年かして枝葉が触れあうようになる頃に間伐をくり返します。そうすることで幹が太く枝葉が広がった丈夫で健康な樹木が育っていきます。

一方で、切られた間伐木も立派な森の資源です。このため、出来るだけ活用するように努めています。現在は、細い間伐木は、積み上げ腐らせて堆肥にするほか、クラフト材料に、また、少し太い間伐木は炭を焼いたり、シイタケの原木にしています。

今回紹介するのは、サクラの間伐木を使った動物クラフトです。樹皮のきれいなサクラの間伐木を丸太や円盤などいろいろな形に切っておいて、ボンドで動物の形に接着し、目玉や色をつけます。ボランティア活動の後、子どもたちなどが楽しんでいます。

作品の一部をご紹介します。



「ブタ」



「クワガタムシ」



「フクロウ」



「ひな人形」



「ゾウ」



「シカ」



森づくりトピックス Q&A



「びわこ地球市民の森」検定 初級

「びわこ地球市民の森」には主に滋賀県に自生している樹木を植栽しています。

その中にはドングリのなる木もいろいろあります。

次の問題の（ ）の中に入る正しい答えを下記から選んで番号を記入してください。

正しくない答えが二つ混じっています。

問1

コナラやクヌギは秋になると葉っぱが赤や黄色に紅葉して、冬には葉が全部かれます。これを（ ）といいます。

問2

スダジイやアラカシは1年じゅう葉が緑色をしています。これを（ ）といいます。これらの木もあまり気がつきませんが、少しずつ葉が入れかわっています。

問3

コナラ、シラカシ、アラカシなどは花が咲いた（ ）にドングリができます。

問4

クヌギ、スダジイなどは花が咲いたあと赤ちゃんドングリのままで冬を越して（ ）にドングリができます。

問5

秋に落ちたドングリはうまく地面にもぐると、すばやく（ ）を出してそのまま春まで眠ります。春になるといっせいに芽を出します。

A…根 B…落葉樹 C…その年 D…常緑樹
E…次の年 F…芽 G…針葉樹

いろいろなドングリ



コナラ



クヌギ



スダジイ



アラカシ



シラカシ

答え

問1—B、問2—D、問3—C、問4—E、問5—A

お知らせ

第4回 森づくりサポーター活動

早春の森が、みなさんをお待ちしています。(温かい“森なべ”もありますよ!)

実施期日

平成22年3月6日(土)

活動内容

植樹地の枝落としと間伐、シイタケの菌うちなど

2009.12 末現在

植栽面積	56,721㎡
参加者数	31,177人
植栽本数	113,945本
(つどいのゾーン)	23,349本
(ふれあいゾーン)	35,695本
(出会いのゾーン)	21,158本
(里の森ゾーン)	33,743本

編集後記

森では、間伐木の有効活用の一環として、一昨年
から、ガールスカウトやサポーターみなさんがシイ
タケづくりに取り組んでいます。昨年秋に、一部の
細いシイタケ原木から百個程のシイタケ(写真)が
顔をだしました。森づくりセンターの冷凍庫で保管
し、3月のサポーター活動の森なべ材料に使います。
お楽しみに。

